

文学国語 単元指導計画

日時	令和○年○月○日 (○) ○限	場所	○年○組
クラス	○年○組 (○○人)	授業者	○○ ○○
科目名	文学国語	単元名	詩歌
使用教材	「硝子の駒 — 短歌抄」	使用教科書	『文学国語』 東京書籍
教材観	教科書に掲載されている作品は、近現代の幅広い作品から選ばれたものである。さまざまな作者の紡いだ言葉やその感性に触れることで、生徒の情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やすことにつながると考える。また、短歌について語釈を行い、歌意を読み取り、鑑賞することで、生徒の読解力と表現力だけでなく、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができる教材である。		
生徒観	前向きに学習に取り組むことができる生徒が多く、ペア活動やグループ活動では積極的にコミュニケーションをとることができる集団である。教員の指示に対して素直に取り組む生徒が多く、他者に意見を伝えることも得意な集団であるが、自身の考えを文章で表現することに苦手意識をもっている生徒が多い。そのため、短歌の創作や解説文を書く活動を通して自身の感性を韻文や散文として表現する機会を設けることで、文章を書くことに慣れるきっかけを作る必要があると考える。		
指導観	中学で短歌について深く学んだことのある生徒が少なく、高校においてもこれまで韻文の授業は実施できていない。しかしながら、31音からなるシンプルな短詩形は作ろうと思えば誰でも手軽に作ることができる。そのため、教科書に掲載されている短歌を鑑賞するだけでなく、生徒自身で短歌を創作し、さらにはその短歌を生成 AI にも批評させることで、多角的に言葉の意味をとらえる能力やさまざまな表現の方法を学ぶ機会になると考える。生成 AI を活用した批評については、単元で学ぶ修辞や表現の工夫を踏まえた視点で批評を行うようプロンプトを入力しておくことで、生徒の創作した短歌が単元の学びを踏まえたよりよいものとなるよう工夫する。		

1 単元の目標

- (1) 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めることができる。
[知識及び技能] (I)ウ
- (2) 短歌における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。
[知識及び技能] (I)エ
- (3) 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫することができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] A(I)ウ
- (4) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
[学ぶに向かう力, 人間性等]

2 単元の言語活動

創作した短歌を他者と相互評価することに加え生成 AI を活用した批評を行い、それらの指摘を踏まえて自身が創作した短歌を推敲する。

(関連: [思考力, 判断力, 表現力等] (I)ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 (I)ウ)	① 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。 (A(I)ウ)	① 自身の創作した短歌や解説文を、他者や生成 AI からの批評を受ける取組を通して、文体や表現技法などを工夫しながらよりよい表現を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。
② 短歌における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 (I)エ)		

4 指導と評価の計画 (全 4 時間)

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次	○短歌の特徴や修辞について理解する。 ○教科書に掲載されている短歌を鑑賞する。	[知識・技能] ①	「記述の点検」
第2次	○提示されたテーマに沿った短歌を創作する。	[知識・技能] ② [思考・判断・表現] ①	「記述の点検」
第3次	○創作した短歌に対して、200字以内で自身による解説文を書く。 ○創作した短歌と解説文をグループで読み合い、相互に批評し合う。	[思考・判断・表現] ①	「記述の点検」
第4次 (本時)	○他者からの批評に加えて、生成 AI からの批評も参考に、推敲のポイントをまとめる。 ○推敲のポイントを踏まえて創作した短歌と解説文を推敲する。 ○学習の振り返りをする。	[知識・技能] ② [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の点検」 「記述の分析」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○教科書所収の短歌について学ぶ。 ○短歌を鑑賞する。	・この単元では、短歌について学び、短歌の創作や解説文の作成をすることを伝える。 ・ワークシートに沿って授業を進め、短歌の基本的な知識について説明する。 ・教科書に掲載されている短歌に関して、ワークシートに沿って鑑賞する。	[知識・技能] ① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。
2	○短歌を創作する。	・テーマ①「高校生」、テーマ②「恋」とし、テーマに沿った短歌をそれぞれ創作する。 ・短歌を創作する際のポイントを伝え、そのポイントを踏まえて作成できているかを確認しながら進める。	[知識・技能] ② [思考・判断・表現] ① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。

3	<p>○創作した短歌に対して、200字以内で自身による解説文を書く。</p> <p>○創作した短歌と解説文をグループで読み合い、相互に批評し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で学んだ修辞や表現方法に関する指摘ができないか考えるよう助言する。 	<p>[思考・判断・表現] ①</p> <p>「記述の点検」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容を点検する。
4 (本時)	<p>○他者からの批評に加えて、生成AIからの批評も参考に、推敲のポイントをまとめる。</p> <p>○推敲のポイントを踏まえて創作した短歌と解説文を推敲する。</p> <p>○学習の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で学んだ修辞や表現方法を踏まえた批評を行うようプロンプトを入力した生成AIに生徒の創作した短歌と解説文に対する批評を出力させておき、それぞれの生徒に提示する。 ・グループの仲間と生成AIそれぞれから受けた批評に基づいてまとめた推敲のポイントを踏まえ、短歌と解説文を推敲するよう指示する。 ・振り返りシートを活用し、本単元において新たに学んだことや再確認できたことを文章にまとめる。 	<p>[知識・技能] ②</p> <p>「記述の点検」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載内容を点検する。 <p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p>「記述の分析」ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの内容から、本単元での学びを踏まえて自身の学習を調整しようとしてきているか点検する。

《本授業における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

「文学国語」の「内容」の〔思考力,判断力,表現力等〕「A 書くこと」に関する指導については、「内容の取り扱い」(1)アに、「30~40 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「A 書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めることができる。」状況を「教科書所収の短歌に対する鑑賞文を、作品の特徴を理解した上で記述できている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートの記述を点検して評価する。

ワークシートに記述できていない状況を C と捉え、個別に声をかけて、適切な記述ができるよう促す。

また、[知識・技能]②の「短歌における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。」状況を、「単元で学んだ修辞や表現の工夫を意識して短歌を創作できている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートの記述を点検して評価する。

創作ができていない状況を C と捉え、個別に声をかけて修辞や表現の工夫を思い出しながら創作できるように促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考力・判断力・表現力]①の「文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫することができている」状況を、「短歌や解説文を書く際に表現技法や表記を工夫して創作できている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、創作した短歌や解説文を点検して評価する。

短歌や解説文を書き進めることができない状況を C と捉え、個別に声をかけ、考えを言語化できるように促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「自身の創作した短歌や解説文を、他者や生成 AI からの批評を受けることを通して、文体や表現技法などを工夫しながらよりよい表現を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「他者や生成 AI から受けた批評を推敲のポイントとしてまとめ、改善点を把握できている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートの記述、自己評価を分析し評価する。

自身や他者の短歌、鑑賞文を比較しての気づきや学びがまとめられず、努力を要すると判断する状況を C と捉え、ワークシートの評価項目を参考に、単元を通して気づきや学びがどこかにないか探るよう促す。

6 学習指導案(4 時間目/全 4 時間)

本時の目標:ア. 短歌における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うことができる。

[知識及び技能] (I)エ

言語活動: 創作した短歌に対する他者と生成 AI それぞれの指摘を踏まえて自身が創作した短歌を推敲する。

本時の展開:

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入① 5分	□前時の振り返りと 本時の内容について理解する。	・前時の振り返りを行い、本時は他者や生成 AI から受けた批評を踏まえて創作した短歌を推敲することを伝える。	
展開① 15分	□推敲のポイントを まとめる。	・グループの仲間や生成 AI から受けた批評を整理し、推敲のポイントを箇条書きでまとめる。	・机間指導を通して生徒の記述内容を確認する。
展開② 25分	◎創作した短歌と解説文を推敲する。	・まとめた推敲のポイントに基づき、よりよい短歌となるよう推敲するとともに、解説文も推敲した短歌に合わせて書き直す。	【目標アに対する評価規準と評価方法】 規準:単元で学んだ修辞や表現の工夫を意識して短歌を創作できている。 方法:「記述の点検」(ワークシート、机間指導) [状況Cに対する手立て] ・机間指導を通して作業の進んでいない生徒に助言をし、記述を促す。
まとめ 5分	□本時の内容を振り返り。	・ワークシートに、単元を通じて学んだことや感想を記入する。	